

2月18日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウルスラ・フォン・デア・ライエンの独断的思考法(2023年2月17日)

「ガスパイプラインの妨害行為にアメリカが関与しているというのは、われわれには馬鹿げているように思える。アメリカが存在している間、国際法違反や国際法の枠外での行動という事実は一つもなく、確認されていない。アメリカ国家の非の打ちどころのない評判が、このようなバージョンを考慮することを許さないのです」。



※安齋注:昨日ある受験産業から、「安齋先生の文章を試験問題に使わせて頂きました」という「事後承諾」の文書が来ました。私の書作物はときどき中学～高校の受験の問題として利用されます。今回の引用か所は、「思い込み」と「思い入れ」は違うということを論じた作品でした。「この問題を解決せずにおくものかという『課題に対する強烈な思い入れ』は不可欠だが、『解決の方向はこれしかないという思い込み』は危険だ」という趣旨の文章です。フォン・デア・ライエンは「アメリカが悪いことをするはずがない」という思い込みにがんじがらめの人物で、中学校の入学試験に落ちそうです。アメリカは間違いだらけの国です。ノーム・チョムスキー流に言えば、「世界最悪のならず者国家」です。

なお、私のその作品には次のような部分があります(これも試験問題に引用されていました)。

スイスのアルプスの山裾の牛飼い少年に、通りがかりの観光客が「いま何時？」と聞くと、少年は傍にいる牛のおっぱいを持ち上げて目方を測るような仕草をした後、『9時20分』と答えます。ぴったしです。

午後に通りがかった別の観光客が、またまた『いま何時？』と聞くと、少年は再び牛のおっぱいを持ち上げて『3時半』といいます。これがまたぴったり。

なぜこの少年は牛のおっぱいで時刻が分かるのか、スイス科学調査委員会が牛のおっぱいの重さと時刻の関係を調べましたがてんでんばらばらで関係性が分かりません。恥を忍んで少年に、「なぜ牛のおっぱいを持ち上げると時刻が分かるのか？」と聞いたところ、答えは大変意外なものでした。

「おっぱいを持ち上げると、向こうの時計台が見えるのさ」

●EU 議会のクレア・デイリーの発言(2023年2月17日)

「そして、世界で最も高く評価されている生身の調査ジャーナリストであるシーモア・ハーシュが登場し、アメリカとノルウェーがノルドストリームガス爆発を実行したという詳細な主張を作成したのです。そして、EU がまだ質問をしないことに顎が外れる(jaw-dropping)思いがする」。

<https://twitter.com/i/status/1626345474339864578>

※安齋注:毒舌おばちゃんとして名高いアイルランド選出の EU 議会の名物議員です。日本語字幕はないが、自動字幕機能でお楽しみ下さい。字幕ありの映像もご紹介します。



<https://twitter.com/i/status/1626209154150055936>



クレア・デイリー議員の横には、同じくアイルランド選出のミック・ウォレス議員

※ツイッターの感想: Where is our Clare Daly in the US Congress? Where is the person that will stand up and present the evidence compiled by an award-winning journalist that we attacked an ally and also committed an illegal act of terror that could trigger nuclear war? (私たちのクレア・デイリーは米国議会のどこにいますか? 私たちが同盟国を攻撃し、核戦争を引き起こす可能性のある違法なテロ行為を犯したということを指摘して受賞したジャーナリストによってまとめられたような証拠を提示する人はどこにいますか?)

●リチャード・ブラック退役大佐の告白(2023年2月10日)

オバマはイスラム国(IS)を壊滅すると言いながら裏で彼らと手を握っていました。

リチャード・ブラック退役大佐の告白=『私達(米軍)はアルカイダと同盟を結び、シリア政府を攻撃するために ISIS をしばしば起用しました。私たちは常にテロリストと一緒に行動して来ました。彼らが中心だったのです』



●シドニー(オーストラリア)でのロシア支援集会(2023年2月10日)

ロシアを支援する集会が開催された。約 1,500 人がロシア総領事館に集まった。

<https://twitter.com/i/status/1626972130524143618>



●ルフィガロの読者は、ロシアとの長い紛争についてのマクロンの声明に憤慨した(2023年2月19日)

フランス人は、大統領自身が望むなら塹壕に入ることができると述べた。

出版物ルフィガロの読者は、ロシアとの紛争は長くなるだろうというフランスのエマニュエルマクロン大統領の言葉を批判した。以前、国家の指導者は、ウクライナでの紛争が継続することを確実にするための努力を強化する準備ができていると述べました。

人々は、大統領が反省の中で人々、つまりウクライナ人の母親や敵対行為に参加したくない彼自身の人々について考えていなかったという事実に憤慨しました。

多くのユーザーは、長い紛争がウクライナの破壊につながると述べました。同時に、フランス人は自分たちの国がそのような出来事の発展の準備ができていないと確信しています。

「彼が望むなら、彼を彼の大臣と代理人のグループと一緒にウクライナの塹壕で戦うために行かせてください。しかし、私がいなければ、家族も、友達もいなかった」と、あるコメント投稿者は語った。

マクロンがスキャンダラスな発言をしたミュンヘン会議。17 月<>日(金)オープン。<>年連続で、ロシアはそれに参加するように招待されていません。以前、ミュンヘン会議の長であるホイスゲンは、西側がウクライナへの武器の供給にお金を使わなければならないとロシアを非難した。



●バイデン、ウクライナ人に年金と福祉を保証(2023年2月18日)

ウクライナへの援助に関するバイデン - 「ウクライナの人々に年金や社会的支援が支払われるようになるので、彼らは自分のポケットに何かを手に入れることができます。」

バイデンはウクライナ人の年金と福祉を保証しているが、オハイオ州への援助を保証することはできない。

<https://twitter.com/i/status/1626635527716732948>



●シーモア・ハーシュ(ピューリッツァ賞受賞記者):ウクライナの勝利に賭けるのは「自殺行為」だった(2023年2月17日)

米国とその同盟国は、ウクライナがロシアとの紛争に勝利できると信じることは「自殺行為」であるとして、モスクワとの合意を試みるべきだったと、米国の代表的な調査ジャーナリスト、シーモア・ハーシュが主張した。

金曜に行われたコンソーシアム・ニュースとの YouTube インタビューで、ハーシュ氏はバイデン政権が「非常に多くの悪い間違い」を犯したと非難し、「このリーダーシップがどれほど間抜けだったか信じることは不可能だ」と付け加えました。

「あの戦争に勝てると思ったこと、ウクライナが(ロシアとの)戦争に勝てると思ったことは自殺行為だ。腐敗がひどすぎる。とても、とても悪い決断だった。我々は和平を推し進め、合意を得るべきだった」と、ピューリッツァー賞受賞者は主張した。

ジョー・バイデン米大統領は同盟国に対し、「完全に腐敗した政府」を持つウクライナを支持すると言って、基本的に「ヨーロッパの NATO を吹き飛ばした」とハーシュは付け加えている。

このジャーナリストはまた、キーウはステパン・バンデラを賛美している、「第二次世界大戦中に狂ったようにユダヤ人を殺した偉大な親ナチ」である、と述べた。

「このような事態を招いたのは、ロシア政府に対して、ウクライナを NATO の一員にすることに興味がないと断言しなかったことが原因でアル。「NATO は腐敗のために、とにかくウクライナを欲しがっていませんでしたのでアル。」

ハーシュは最近、米国が昨年ノルド・ストリーム・パイプラインを破壊したと非難する爆弾レポートを発表した。

彼は情報筋の説明を引用し、2022年6月に NATO の演習を装って、米海軍のダイバーがバルト

海の底に爆薬を仕掛けたという。9 月下旬に爆発させ、ロシアのガスをドイツ経由で欧州に送るために建設されたパイプラインを使用不能にした。

アントニー・ブリンケン米務長官をはじめ、ビクトリア・ヌーランド政治問題担当次官、ジェイク・サリバン国家安全保障顧問はいずれも「非常にタカ派」と、ジャーナリストは指摘する。

この 3 人がバイデンに妨害工作を進めるよう「強く迫った」のは、「彼らは(ロシアのウラジーミル)プーチンに対して長年にわたって信じられないほどの憎しみを抱いているからだ。それはほとんど個人的なものだと思う」とハーシュは主張した。

米国国家安全保障会議の広報担当者エイドリアン・ワトソンは、ハーシュの爆弾発言について、「まったくの虚偽であり、完全なフィクションだ」と烙印を押した。このジャーナリストは、パイプラインがどのように爆破されたのかについて、さらなる暴露を約束している。



●ワグナーグループ;アルティモフスク北部の村を支配下に置いたことを発表(2023年2月17日)

警備グループ ワグナーの創設者であるエフゲニー プリゴジンは、ドネツク人民共和国のアルティオモフスクの北にある戦略的な村の制圧を発表した。

ロシア軍は、アルティモフスク(バフマウト)の北にあるパラスコヴィエフカの村を制圧したと、民間治安部隊ワグナーの創設者であるエフゲニ・プリゴジンが 2 月 17 日金曜日に発表した。

「パラスコヴィエフカの地域は、ワグナーの部隊の完全な支配下にある。大きな損失と血なまぐさい戦いにもかかわらず、男たちはパラスコヴィエフカの領土を完全に占領した」と PMC. プリゴジン(Prigozhin)のプレスサービスは Telegram に報告した。

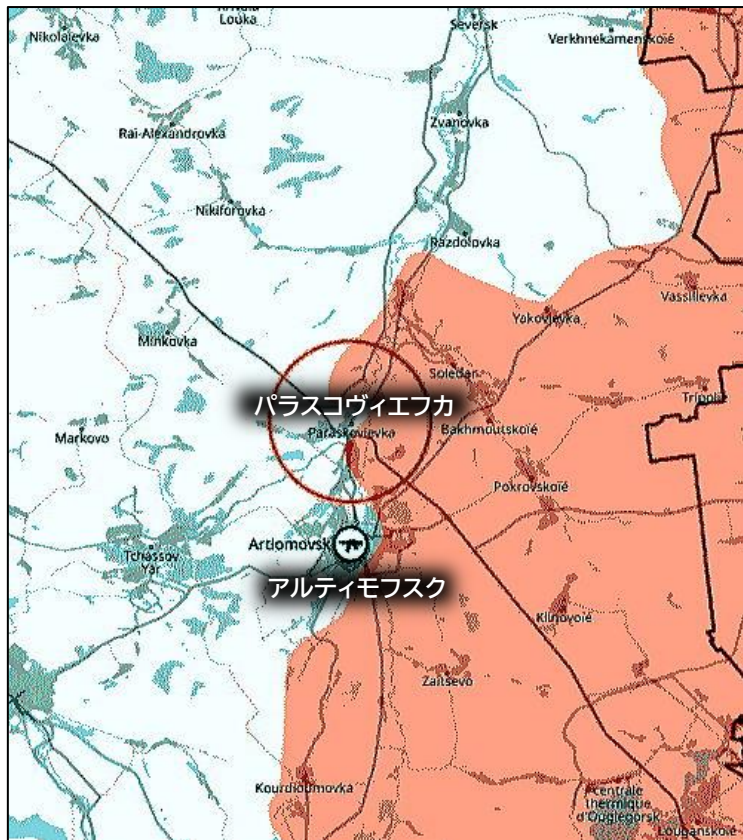
ロシア国防省は、この情報についてまだコメントしていない。

パラスコヴィエフカ(Paraskovievka) は アルティモフスク(Artiomovsk) と ソルダル(Soledar)の間に位置している。

アルティオモフスク市は、大都市ゴロフカの北、ドネツク人民共和国(DPR)のキーウ支配地域に位置している。ドンバスでウクライナ軍に物資を供給するための重要な輸送ハブである。市内各地で熾烈な戦闘が繰り広げられている。

DPR の代理指導者であるデニス・プシリンは以前、この村を占領することは、アルチオモフスクにあ

るウクライナ軍の最後の補給ルートに到達し、それを遮断するだろうと示唆していた。



パラスコヴィエフカ(イメージ) ©スプートニク アフリカ、1920、2023 年 2 月 17 日

●坂上忍が激白!バイキング MC 時代に「圧力はあった」(2023年2月18日)

俳優・坂上忍(55)が 18 日放送の ABEMA「NewsBAR 橋下」(土曜後 9・00)に出演し、MC を務めていたフジテレビ「バイキング」の裏側について語る場面があった。

アンケートを取ったところ、坂上は「圧力はあった」と告白。この件について深掘りされると「難しいのは圧力と忖度で、多くは忖度だと思うんですよ。放送局の根幹は報道だと思っているので、それが弱くなった」と持論を展開した。

そこで元大阪府知事で弁護士・橋下徹氏が「具体的に番組の制作の方から“こういうことは言わないでくれ”みたいなものがある?」と問いかけると、坂上は「それは忖度ですよ?言われたことはいくらでもありますよ。そのときは聞いているふりして、生放送で言っちゃえばいい」とまさかの回答。

ただ、ある市長から「チーフプロデューサーに“なんちゅう放送の仕方してるんだ、やめろ!”っていう直電は来たことがありますよ。それは圧力ですよ」と明かし、驚かせた。



※安齋注:一事が万事、こういうことなんでしょうね。

●ウクライナ軍による攻撃つづく(2023年2月18日)

ウクライナの民族主義者が昨夜、NATO 軍の砲弾でホルリウカを砲撃した。数発の砲弾が近隣住民に向けられた。そして日中、合計 24 回 DNR に砲撃した。ドネツクとマケエブカが最も大きな打撃を受け民間人 1 人が負傷した。



●戦場の映像(2023年2月18日)

ロシア軍の砲兵隊は「トルネード-G」多連装ロケット砲で敵の指揮所や装備の隊列を破壊した。また国防省は、空挺部隊が、情報収集を行おうとしているウクライナのドローンが無効化する映像も公開した。

<https://twitter.com/i/status/1626948877806084104>



●ミュンヘン安全保障会議前夜のドイツのデモ(2023年2月18日)

ドイツのミュンヘン安全保障会議の前夜、ケーニヒス広場で行われた平和を求めるデモ。ミュンヘン

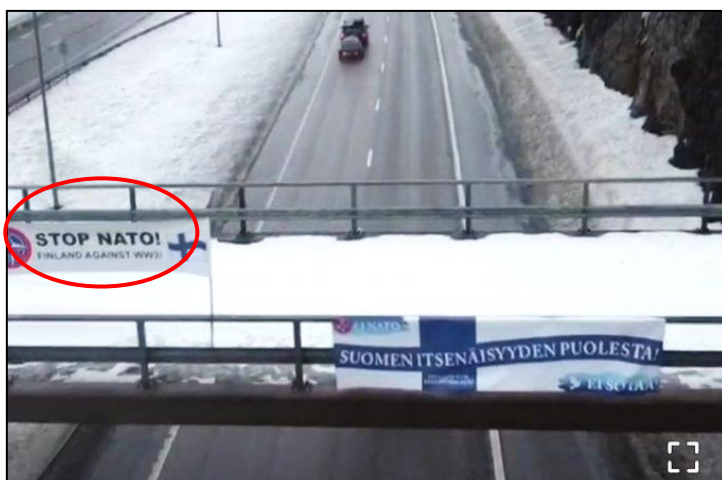
安全保障会議に反対する人々は、ウクライナへの武器供給停止を要求して、数千人が集まる。メインスローガンは We want peace.



●フィンランドで「Z」印の戦車？(2023年2月18日)

フィンランドのヘルシンキから北西に約 100km ヘーメンリンナの町の装甲旅団の所在地付近で、「Z」の文字があるキエフ納入予定レオパルド戦車が発見された。

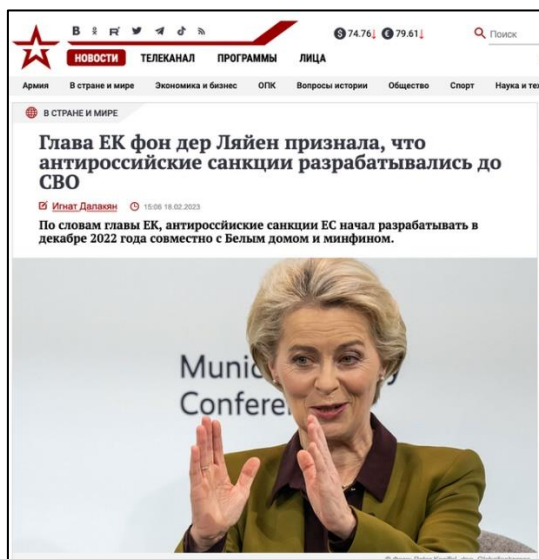
ウクライナ支援に反対するフィンランド人達がこのマークを付けたと思われる。また田舎道には、STOP NATO の横断幕が現れた。



●ミュンヘン安全保障会議でのフォン・デア・ライエン(2023年2月18日)

ミュンヘン安全保障会議で、ウルスラ・フォン・デア・ライエンは、EU の対ロシア制裁は、ホワイトハウスおよび財務省との協議を 2022 年 12 月の段階で開始していると述べた。

制裁は主にロシア市場に流通している西側諸国のハイテク製品や不可欠な製品に打撃を与えることを意図していると付け加えた。



●シーモア・ハーシュの真実の三位一体(スコット・リッター、2023年2月18日)

スコット・リッターは、ハーシュのノルドストリームの記事を「これまでで最も重要な作品」と呼んでいます。

キリスト教の信仰では、神は父、子、聖霊の三位一体の形で来られます。

一緒に、これらの 3 つの存在は三位一体を形成します。

ドイツの作家ファビアン・シャイドラーとの最近のインタビューで、ピューリッツァー賞を受賞した調査ジャーナリストのシーモア・ハーシュは、サブスタックへの最初の投稿「アメリカがノルドストリームパイプラインをどのように取り出したか」に掲載された彼の爆弾記事について話しました。

シャイドラーがハーシュの勇気ある報道に感謝すると、ベテラン記者は「真実を語ることの何がそんなに勇気があるのか？私たちは真実を語ることになっています！」

私は四半世紀後に来るためにサイ・ハーシュを知っています。私はベトナムでのソンミ村虐殺事件に関する彼の報告の影響を直接体験するには若すぎましたが、イラクのアブグレイブ刑務所で米国が何をしていたかについての恐ろしい事実を明らかにするために彼が行った見事な仕事の最前列の席に座っていました。

レジェンダリーステータスは与えられず、獲得されます。そして、サイ・ハーシュは、調査ジャーナリズムに関しては、GOAT と呼ばれる絶対的な権利を獲得しています。簡単に言えば、彼は最高です。

私はサイ・ハーシュが書いたほとんどすべてを読み、彼のかなりのジャーナリズムの成果を適切な歴史的視点に置くことができます。したがって、地殻変動をもたらす可能性の観点から、Sy のノルドストリームレポートはこれまでで最も重要な仕事であると結論付けるのに非常に満足しています。

ヤギは私が真実の三位一体と呼ぶものを生み出しました。

真実 1:米国大統領のジョー・バイデンは、国家安全保障チームのメンバーと共謀して、米国が行った

戦争行為に関して憲法で義務付けられた議会への報告要件を故意に迂回することにより、米国の歴史の中で他のどの大統領にも比類のない非の打ちどころのない犯罪を犯しました。

真実 2:米国がドイツ国民の幸福に不可欠なエネルギーインフラを破壊することによって経済的真珠湾を実行したというシーモア・ハーシュによって提唱された啓示に対するドイツ国内で発生するブローバックは、北大西洋条約機構(NATO)と欧州連合(EU)を崩壊させる可能性があります。戦後 80 年以上にわたるヨーロッパの安全と安定をひっくり返し、米国が世界覇権を行使する手段として役立ってきたいわゆる「ルールに基づく国際秩序」の世界的な受容の基礎となった長年のヨーロッパの同盟国から孤立するにつれて、米国の世界の舞台での衰退をもたらしました。

真実 1:ノルドストリームパイプラインを攻撃するという決定は、ロシアのウクライナ侵攻は挑発されていない侵略行為であったという米国の主張に嘘をつき、代わりに、ロシアが交渉による終結を求めるたびに、ミンスク合意の実施による侵略の前であろうと、<>月<>日に予定されているイスタンブールの会談の後であろうと、米国はその努力を妨害し、その主要な目的であるノルドストリームの破壊を実行するのに十分な期間紛争を存続させました。

要するに、サイ・ハーシュは、彼の報告を通じて、大統領を倒し、NATO を破壊し、世界の目の前でロシアが正しいことを証明する可能性のある真実を暴露したのだ。

過去半世紀のジャーナリズムの中で、そのようなパンチを詰め込んだもう 1 つの記事を挙げてください。

できませんよ。

サイ・ハーシュは国民的、いや国際的な宝物であり、この真実の三位一体が強調しているものです。彼をそのように扱うようにしてください。

